

鶴ヶ島市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画にかかる アンケート調査の実施について

1 目的

令和6年度から令和8年度までの「鶴ヶ島市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定の基礎資料とするため、高齢者及びその家族へ調査を実施する。

高齢者の生活状態から見た地域課題、必要としているサービス、家族等介護者の就労継続の実現に向けたサービス等を把握し、計画に反映する。

2 実施概要

	介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	在宅介護実態調査	在宅生活改善調査
調査目的	高齢者の日常生活の実態や健康状態、生活支援ニーズ等を把握する。	認定者の在宅生活の継続に必要なサービスや家族介護者の実態等を把握する。	現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている利用者の実態等を把握する。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> 一般高齢者 総合事業対象者 要支援認定者 	在宅の要支援認定者・要介護認定者とその介護者	居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護施設、看護小規模多機能型居宅介護施設の介護支援専門員（ケアマネジャー）
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 国が示す調査項目（必須＋オプション） 市独自調査項目 	<ul style="list-style-type: none"> 国が示す調査項目（必須＋オプション） 市独自調査項目 	<ul style="list-style-type: none"> 国が示す調査項目
配付数	2,400人	600人	50人
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> 郵送 	<ul style="list-style-type: none"> 郵送 認定調査員による訪問調査 	<ul style="list-style-type: none"> 郵送

3 調査期間（予定）

令和4年11月下旬に発送し、12月下旬までに回収する。

4 調査内容

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（資料 2-1 のとおり）

設問内容	設問内容の意図等
①家族や生活状況について	基本情報
②からだを動かすことについて	運動器機能の低下・転倒リスク・閉じこもり傾向を把握
③食べることについて	口腔機能の低下・低栄養の傾向を把握
④毎日の生活について	認知機能の低下・IADL（手段的日常生活動作）の低下を把握
⑤地域での活動について	ボランティア等への参加状況・今後の参加傾向
⑥たすけあいについて	うつ傾向を把握
⑦健康・予防について	知的能動性・社会的役割・社会参加の状況等を把握
⑧認知症に係る相談窓口の認知度について	認知症に関する相談窓口の認知状況を把握
⑨市独自調査項目	必要になるとと思われる支援・介護予防の取組・成年後見制度の認知度・インターネットの利用状況・コロナ禍の影響・地域包括支援センターの認知状況

(2) 在宅介護実態調査（資料 2-2 のとおり）

調査概要	基本的な視点
①調査対象者本人について	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護者の在宅生活の継続 ・介護者の就労の継続 ・介護サービス利用におけるコロナ禍の影響 ・孤独・孤立の状況にある介護者への支援の検討
②主な介護者について	
③市独自調査項目	

(3) 在宅生活改善調査（資料 2-3 のとおり）

調査概要	基本的な視点
①事業所票（管理者が回答）	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅で現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者の実態の把握 ・地域に不足する介護サービス等の検討
②利用者票（ケアマネージャーが回答）	

(4) その他

資料 2-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、資料 2-2 在宅介護実態調査の調査項目種別



必須項目



オプション項目



市独自設問項目